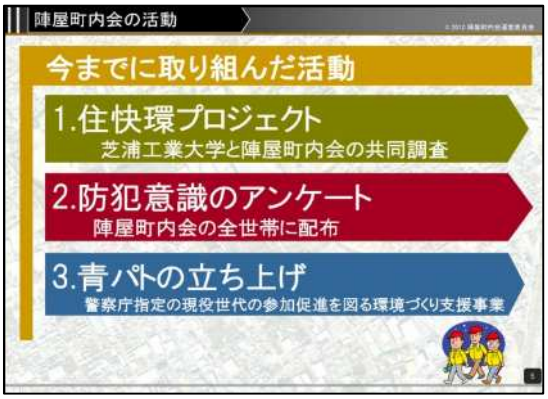
陣屋町内会自主防犯ボランティア（埼玉県）

埼玉県上尾市から来ました、太田と申します。今日は、私の団体の現役世代代表の下田と役員でお伺いしました。よろしくお願いします。今日の題名は「次の世代につなげる防犯活動」ということでお話しさせていただきます。

活動地域の紹介

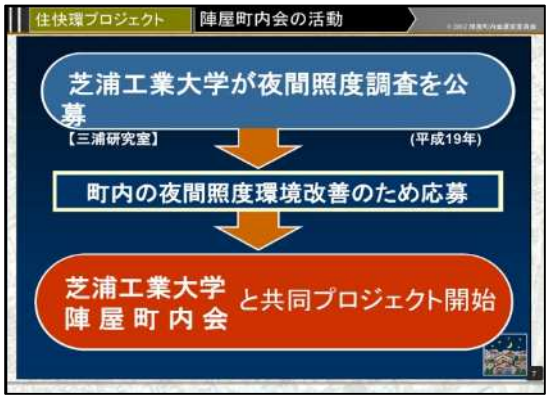
上尾市は、1都6県に隣接する埼玉県のほぼ中心にあります。上尾市の人口は 22 万 7,000 人で、県内では第8位の規模です。私たちの陣屋町内会は上尾市の南側にあり、3月1日時点で 1,020 世帯、人口は 2,700 人余りです。

陣屋町内会に隣接するエリアには、昭和 46 年にオープンし、当時「東洋一」を誇ったさいたま水上公園などがあります。陣屋町内会は住所からすると上尾下地域のことを言います。一般的に町名はその住居地となっていますが、陣屋の由来は江戸時代、藩の陣屋を上尾下に構えていたことから、いまも字名に陣屋として残っています。事務区も陣屋町内会となっています。それでは、今日は、私たちが取り組んできた防犯に関する活動を3つ発表します。



最初は、暗い地域を明るくするために学生さんと共同で調査を進めた住快環プロジェクト、2番目は全世帯を対象に行った防犯意識アンケートについて、3番目は昨年より開始した青パトと住民参加の夜間パトロールについてです。

活動の概要～住環境プロジェクト



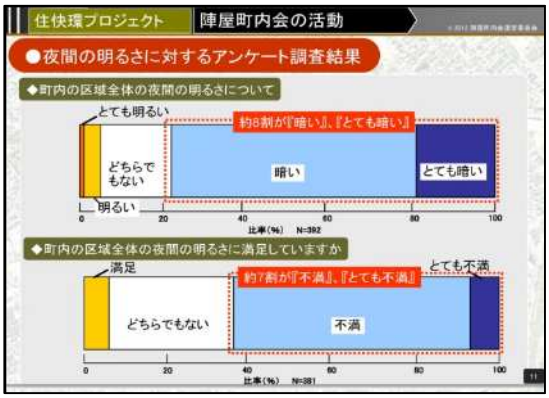
陣屋町内会は10年ほど前から急速に宅地化が進み、都内や隣接する市町村から転入者が増えてきましたが、「町内が暗い」とか、「犯罪が増えているのでは」という住民からの声が増えてきました。その声がきっかけで、安全・安心な環境づくりを目指す仲間が集まり、防犯活動が始まりました。

まず、町内の暗さに対してです。行政に対して要望を上げる前、実態調査をどのように進めればよいか模索し

ているときに、芝浦工業大学の三浦研究室が進めていた、住民と共同で居住地域の照度調査を行い、住環境を改善しようという取組に応募し、町内会と大学で町を明るくする共同プロジェクトがスタートしました。

まずは町内の街灯設置場所や道路状況などを学生さんに把握してもらい、具体的な調査を行うにあたって夜間照度の基準を決め、うちの町内であれば何カ所を測定する必要があるかなどの準備を進めてきました。夜間の明るさの基準は日本防犯設備協会の防犯灯の推奨照度や、JIS 規格の歩行者に対する道路照明基準などを基に、Aの「明るい」、Bの「普通」、Cの「暗い」、Dの「とても暗い」の4段階の調査基準を設けました。

具体的な調査に入り、まず行ったのは全住民へのアンケートです。町内の夜間の明るさに対する認識、不満などを集計し、住民が感じる暗い場所を記入してもらいました。アンケート結果で、夜間の明るさについては「暗い」、「とても暗い」が8割を占め、約7割がその暗さに対し「不満」、「とても不満」との回答でした。これらとともに具体的にどこが暗いのかを回答してもらい、その結果を集計し、地図に印をつけ、視覚的に暗い場所に対する住民の意見の多さを読み取れるように工夫しました。



アンケートを参考に、いよいよ調査開始です。調査は3つ行いました。一つは、道路面上での明るさである水平面照度調査です。町内 1,099 カ所で測定しました。2つ目は、人の目線での明るさである鉛直面照度調査です。町内 439 地点を測定しました。3つ目は街灯そのものの明るさ調査で、町内にある 108 カ所の街灯の真下で測定しました。

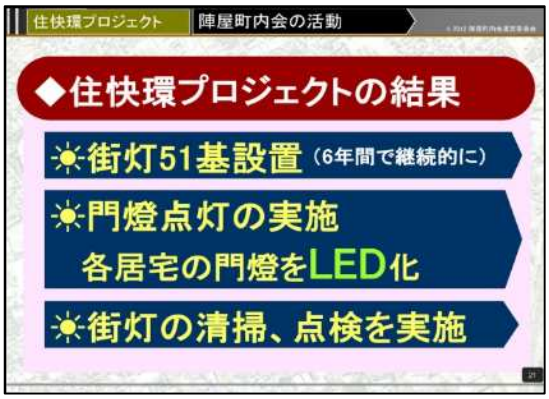
学生、町会の住民延べ 300 人が参加し、約2カ月かけて日程調整し、測定した結果を芝浦工業大学三浦研究室の学生さんが取りまとめてくれ、公民館でプロジェクト報告として発表いただきました。当日は上尾市役所の市民安全課、上尾警察の担当者も出席いただき、町の明るさの実態について協議しました。

まずは道路面上の明るさである水平面照度調査の結果です。「暗い」、「とても暗い」のCとDが全測定地点の8割を占め、D の「とても暗い」が6割を超えている結果でした。これは街灯の設置間隔や設置本数が少ないことが原因です。

次に、人の目線の高さの明るさである鉛直面照度調査の結果です。C、D の「暗い」、「とても暗い」が8割を

占め、町内全体の明るさが不十分だということがわかりました。また、もう一つの調査である街灯直下の明るさの結果、水銀灯は明るさを確保できているものの、蛍光灯の半数は「暗い」という結果でした。

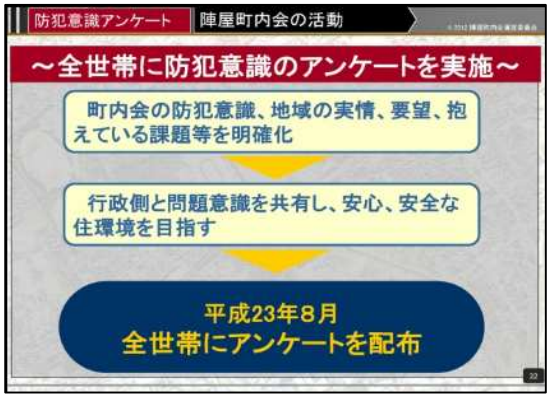
この調査の結果を踏まえ、住環境改善マップを作成しました。このプロジェクトの計画から調査、分析までを住環境調査結果報告書として取りまとめ、芝浦工業大学三浦研究室と陣屋町内会が市役所を訪れ、街灯設置の増設など、照度改善の要望を行いました。大学、町内会、行政と三位一体となり進めたプロジェクトは、確実な成果を残しました。



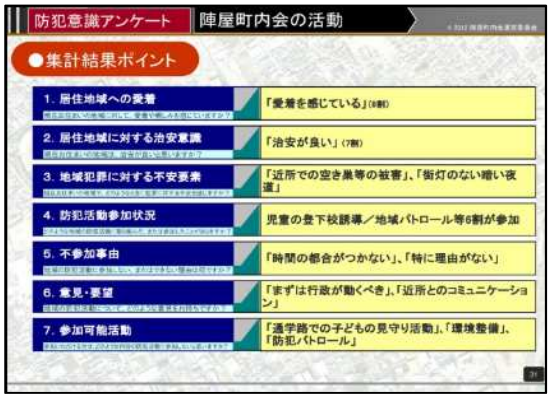
結果として、6年間継続的に街灯 51 基が新設されました。街灯照度不足を補う策として門燈照明の LED 化を推進し、補助金の事業を町会で始めました。街路灯の点検、清掃活動を町会の皆さんにお願いし、暗い場所の解消も進めています。

活動の概要～防犯意識アンケート

次は、防犯意識アンケートについてです。町内の皆さんが防犯に対してどのように思っているか。自分たちの町は自分たちで守るという、次なる目標に進むための意識調査でもありました。アンケート内容は、画面に映っている7項目です。1、居住地域への愛着、2、居住地域に対する治安意識、3、地域犯罪に対する不安要素、4、すでに参加している防犯活動などの取組について、5、活動に参加できない理由、6、防犯活動全般についての意見･要望、7、参加いただける活動についてです。



一つ目の居住地域への愛着については、「やや感じる」、「かなり感じる」の2つを合わせると8割と、かなり高い数値が出ました。それだけ陣屋町内会に愛着を感じているということで、うれしい結果が出ました。



2つ目は、居住地域に対する治安意識です。「良いほうだと思う」が 68%、「大変良いと思う」を合わせると7割という結果です。

3つ目は、地域犯罪に対する不安要素についてです。「どのようなときに犯罪に対する不安を感じますか」の項目では、「近所での空き巣被害の発生」が１位で 76%でした。次が、「街灯がなく暗い道を歩くとき」で 63%でした。

4つ目は、すでに参加している防犯活動の取組についてです。「児童の登下校の誘導」など、全体の63%が何らかの防犯活動に参加していることがわかりました。意外と高い数字で、住民の防犯に対する意識が高いという結果です。

5つ目は、活動に参加できない理由です。理由の半数が「時間の都合がつかない」でした。防犯活動は無理をせず、都合のつくときに行えばいいと思います。次に多かったのが、「特に理由がない」です。防犯意識が低い人や活動のきっかけがなかった人たちだと思いますが、防犯に対する啓蒙活動を続け、住民が無理なく参加できる仕組みづくりが今後の課題だと思います。

6つ目が防犯活動全般についての意見、要望です。1位は、「街灯や交番を増やすなど、まずは行政がしっかり動くべき」が 60%、次に「近所とのコミュニケーションを増やすべき」でした。防犯のまちづくりは行政や警察主導でという考えが多くあること、近所づきあいを通じた地域の防犯ネットワークをつくりたいという意識が伺えました。

最後は、参加いただける防犯活動についてです。子どもたちを守る活動が1番でした。子どもたちを危険から守る大人たちの思いは、どこの地域でも同じだと思います。また、環境整備、防犯パトロール、危険箇所の点検などがこれに続きました。

全体をまとめた所見では、地域に愛着のある住民は防犯に関する意識も高く、何らかの防犯活動に参加している方が多いとのことです。私たち陣屋町内会は、このアンケート結果により、新たな防犯活動の一歩を踏み出すことにしました。

活動の概要～青パトと各種パトロール

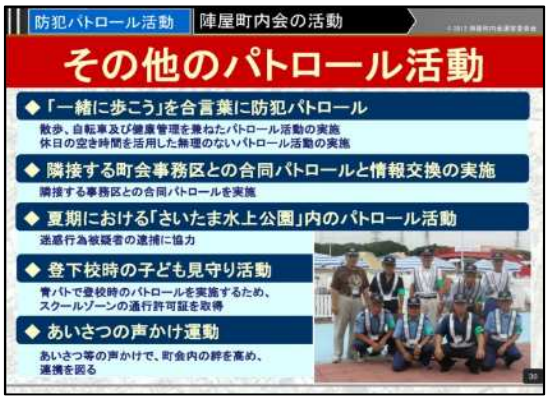
住民の防犯意識アンケート結果を受け、若い人たちが多い町内で次の世代につなげる活動の一歩として、陣屋町内会自主防犯ボランティアを立ち上げ、徒歩と青色回転灯車両の両面による防犯パトロールを開始することにしました。青パトの開始当初は町内会副区長の車両を使っていましたが、本格的に活動を行うにあたり専用車両を購入しようとの意見が高まり、町内会にて、青色回転灯パトロール専用の車両を購入しました。その維持費はすべて資源回収など、リサイクル事業の収益で賄うことにしました。

夜間パトロールは、毎週土曜日、夜7時から1時間ほどかけて町内のパトロールを行います。昨年 10 月から開始し、この4月までに 24 回行い、146 名の住民の皆さんに参加いただきました。青色回転灯車両による防犯パトロールは、朝の小学校児童登校時の巡回を1時間、夜間、隣接する町内を含む広域巡回を1時間半行い、土日、天候関係なく、毎日広範囲のパトロールを実施しています。昨年 10 月の開始から4月までに 128 回実施し、走行距離は 2,298km になっています。

防犯パトロール実施地域については、町内会は徒歩で、青パトは陣屋を含め 10 町内会、約8倍のエリアを巡回しています。青パト活動を通して、防犯講習や犯罪防止活動に参加しています。

住民の皆さんが不安を感じている事案に対して警察署等から情報提供を受け、パトロール計画の策定や情報発信を進めています。小中学校の校長等とも、定期的に情報交換を行っています。昨年の9月には低学年の女子児童をねらった変質者が現れ、学校からの通報により自転車パトロール7日目に変質者を確保し、警察に引き渡すことができました。

その他のパトロール活動として、「一緒に歩こう」を合い言葉に防犯パトロール、隣接する町会事務区との合同パトロールと情報交換、夏期におけるさいたま水上公園のパトロール、登下校時の見守り活動、挨拶の声かけ運動、年に5～6回ですが振り込め詐欺の講習会を行っています。また、毎月第3金曜日午後2時から6時半まで、上尾警察署原市交番管内を5人1組で2組による自転車のパトロールを実行しています。



陣屋町内会では、1年を通じていろいろな町会行事を行っています。いろいろな行事に年齢等関係なく参加してもらうことが、地域のコミュニケーションづくりに役立っていると思います。パトロールには親子での参加をお願いし、通学路や危険箇所の話をしてもらっています。子どもたちにも、地元を愛する気持ちや私たち大人がしている防犯活動を理解してもらうためです。今後も活動が長く続くよう、次の世代に確実に引き継ぎたいと思います。

質疑応答

●質問　お聞きしたいのですが、私どもは町内会単位でやっていますが、皆さんボランティアでやられていると思います。かといって、防犯パトロールをやっていると費用もかかると思います。私どもの防犯パトロール隊も、数年前から自治会として予算を取ってやらせていただいています。費用の内訳には、たとえば子どもパトロールをやると、参加した人や子どもたちにお菓子や、夏なら飲みものも用意する。あるいは暑いさなか、パトロールをして帰ってくると冷たいものを飲むということで、たぶん費用がかかっているのではないかと思います。その辺、費用面に関してはどうなっているのか、お聞かせいただければありがたいと思います。

○回答　パトロールするとき、毎週土曜日76名のメンバーと役員10名、それに有志の方で、1班8～10名でパトロールしています。終わった後は、公民館に自動販売機を設置しているので、冬は温かいもの、夏は冷たいものを提供しています。

3年半前から、町内のリサイクル事業を始めています。年間で約 60 万円の収入があります。その費用で青パトも購入し、もちろん保険も燃料代もあります。燃料は天然ガスを使っています。走行速度は20kmと低速で走ります。排気ガスをばらまきながら走るわけにいかないので、天然ガスを使っています。ものすごく燃費は悪いです。月に 5,000 円くらいかかりますが、周りの事務区長たちとも相談して、「一月 5,000 円だから一月分出してくれ」と、いま3つの事務区から提供を受けています。そういうことで、大元の原資はリサイクル費用です。町内の皆さんも、これでリサイクルに出す量が極端に増えました。